《京都》御所と離宮の栞　～其の二十六～

桂離宮のあられこぼしと延段（のべだん）

桂離宮は、建物と庭園が見事に調和し、美しい景観を織りなす日本の名庭園の一つです。そんな桂離宮の美しさは足元にも及び、苑路には、自然石や切石が敷き並べられた光景が多く見られます。今号では、庭園の重要な役割を担う石敷きの道「あられこぼし」や「延段」についてご紹介します。

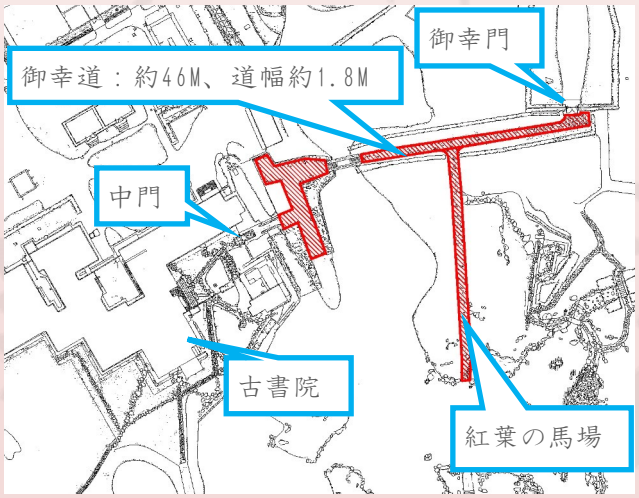
あられこぼし

桂離宮の北東にある御幸門(栞其の一)から古書院の中門の間には、道幅の中央に膨らみのある柔らかな印象の小石を敷いた苑路があります。

この苑路の小石敷きは、まるであられをまき散らしたかのような風情に小石を敷き並べることから「あられこぼし」と呼ばれています。『桂御別業之記』という資料によると、後水尾上皇の桂離宮御幸に際し、「御幸道（みゆきみち）」において雨の後に供奉（ぐぶ）の人々の草鞋が泥土に染まることを防ぐために小石が敷かれたようです。今のあられこぼしを見ると、道幅の中央を膨らませて水たまりを防ぎ、更には基礎部分に砂利を敷いて水はけを良くするなどの工夫がなされていることが分かります。

あられこぼしに使用されている小石は、地元桂川水系から採取されたチャートと呼ばれる堆積岩で加工せずそのまま使用されています。長さは、約7cm前後で、石の上面（じょうめん）が平滑で縦長の形状をしているものが選別されています。その量は、苑路の約1㎡あたり450～500個ほど使われ、あられこぼし苑路全体の約283㎡で、約13万個にもおよぶ小石が使用されています。

最近では、平成29年度に約4ヶ月をかけ、参観順路の最初の土橋付近の区域や通称「紅葉の馬場」といわれる区域を修繕しました。



あられこぼし位置図（赤色箇所）


あられこぼし（御幸門付近から見る）


あられこぼし（中門付近）

次に、あられこぼしの構造について、桂離宮の参観者休所で展示している模型(写真:①)と、その制作風景を見ながらご紹介します。

あられこぼしに使用する材料は、小石の他に砂利と赤土のみで、漆喰(しっくい)やモルタルなどの石を固定する材料は使用しません。始めに排水を効率的に行うために砂利を敷き、その上に土台となる赤土を被せ、赤土の中に小石を縦方向に打ち込みます(写真:②、③)。縦方向に打ち込むことで、より外れにくくなります。

打ち込む際には、目地の模様が忌(い)み目地(見た目や外れやすさから避けるべきとされる、十文字や直線などを呈する目地)とならないように注意しながら小石を一つ一つパズルのように組み合わせて選定し、隣り合う石の側面や角をしっかりとかみ合わせて打ち込みます。打ち込みは、庭園技術を有する職人でも一日当たり20〜30cm角しか施工できず、とても難しい作業となります。

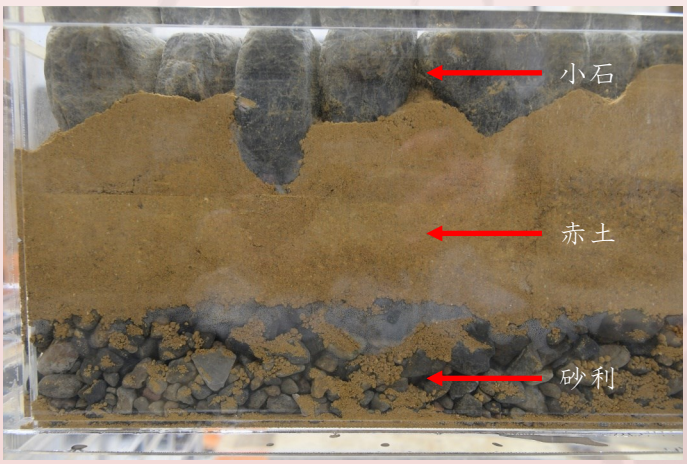
打ち込みを終えたら、できるだけ小石の高さを揃えるため、板を当てて叩き、微少な高さの調整を行います。(写真:④)。

最後に、目地に土を入れ込んで水を撒き、できるだけ隙間を埋めます。こうすることで更に強固に仕上がります。

以上のように小石を敷き並べて打ち込むというシンプルな施工方法ですが、漆喰などを使用せずに苑路として仕上げるためには、職人の技術力や経験、知識が必要となります。



① あられこぼし模型



② あられこぼし断面



③ 石の打ち込み



④ 高さの調整

三種類の延段

漢字の書体に、真書(楷書)、行書、草書の三種類があり、ここから茶道、華道、絵画、作庭など色々な分野で、「真行草(しんぎょうそう)」の語で表現の違いを表す言い方が用いられるようになりました。桂離宮では、苑路の延段にその語が使われることがあります。

中門から古書院御輿寄(おこしよせ)前に敷かれた延段は、「真の延段(真の飛石とも)」と呼ばれ、すべて角のある切石で構成されており、書院に上がるためのアプローチに相応しく堅い印象があります。切石は花崗岩(かこうがん)で、四角形や台形など41個の石が使用されています。

次に、松琴亭の茶会で、待合として使用された外腰掛の前にある延段は、「行の延段」と呼ばれ、細長い切石を使用して緊張を残しながらも、切石の内側部分を自然のまま残して自然石との調和を図り、少しくだけた雰囲気を醸し出しています。客人を外腰掛の前から天の橋立を模した池の庭に導くように配されており、七種類の石で構成されています(石質一覧表参照)。

笑意軒前や書院の前の延段は、「草の延段」と呼ばれ、切石は使用されず、七種類の自然石のみが使用されており，真や行に比べて、とても柔らかい雰囲気があります。

延段は、赤土を突き固め土台を作る「土極め」を行います。土極めした上に、切石や自然石を並べ、延段を形成していきます。真の延段は切石を隙間無く整然と敷き並べることで完成とします。行の延段と草の延段については、目地に漆喰を入れ込み、石を固着させます。



古書院前の延段

まとめ

参観苑路最初の御庭口門の敷居を跨ぐと、早速あられこぼしが目に入り、景観への期待が高まります。苑路を進むと、延段や飛石が場所毎に表現を変えながら次の場所へと導きます。石敷きの道はとても歩きやすく、雨天でも泥土で汚れることはありません。景観だけではなく実用的な部分にも効果を発揮するところに、客人をもてなす心遣いが感じられます。

真の延段	行の延段	草の延段
花崗岩	花崗岩	花崗岩
	チャート	チャート
	砂岩(さがん)	砂岩
	頁岩(けつがん)	頁岩
	溶結凝灰岩(ようけつぎょうかいがん)	溶結凝灰岩
	緑色片岩(りょくしょくへんがん)	閃緑岩(せんりょくがん)
	アプライト花崗岩	凝灰岩

延段に用いられている石質一覧表



外腰掛前の延段



書院前の延段

花ごよみ　～ツツジ～



桂離宮　令和2年4月30日撮影

ツツジ

御所・離宮にはキリシマツツジやサツキツツジなど数種類のツツジが咲いています。春の暖かさから夏の暑さに向かおうとする頃、晩春から初夏にかけて見頃を迎え、新緑の中に色鮮やかなツツジの赤色やピンク色が加わり、とても美しい風景が広がります。京都の御所と離宮のどの施設においても、参観苑路からツツジを鑑賞することができますが、特に桂離宮の賞花亭から苑路を下った先の御殿を背景に見るツツジの光景が参観される方に人気です(写真:上段)。

また、江戸時代においても、霊元上皇や孝明天皇がツツジを鑑賞されたという記録が残されており、昔も、今と同じようにこの鮮やかな色合いが人々を楽しませていた光景が目に浮かびます。



京都御所　御常御殿北側　令和2年5月7日撮影

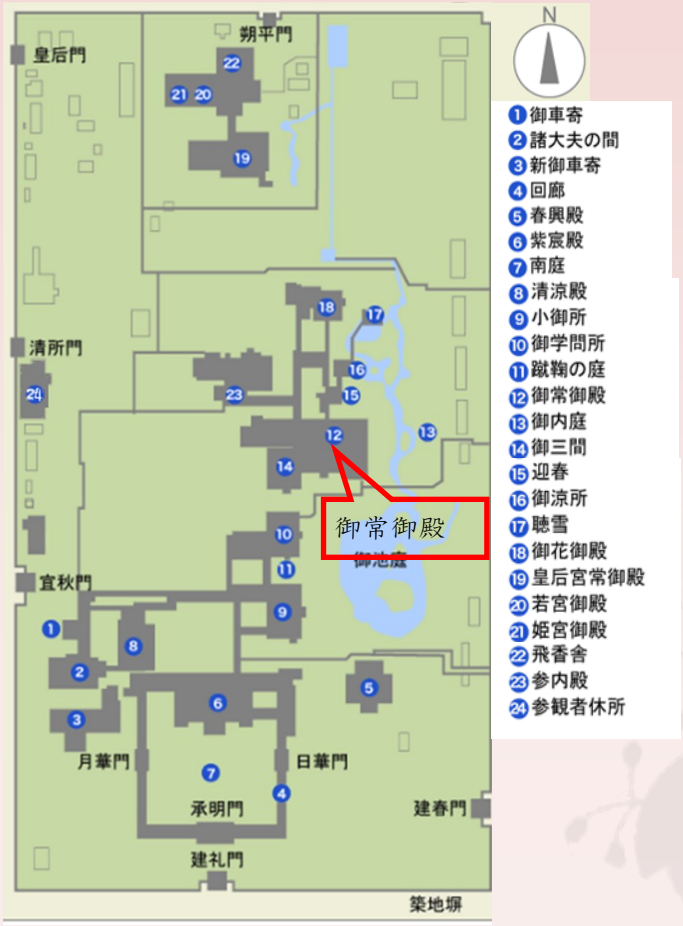


修学院離宮　　中離宮客殿西側　令和2年6月18日撮影



京都仙洞御所　南池中島　令和2年4月27日撮影

京都御所案内図



京都仙洞御所案内図



桂離宮案内図



修学院離宮案内図



今回ご紹介しました「あられこぼし」、「延段」、「ツツジ」は参観でご覧になれます。桂離宮、修学院離宮、京都大宮御所の申込み方法は、ホーム - 京都御所（kunaicho.go.jp） をご覧ください。

京都御所は申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。詳細は、参観要領 - 京都御所（kunaicho.go.jp） をご覧ください。

これまでの「《京都》御所と離宮の栞」については、宮内庁ホームページのこちらからご覧ください。

＜問い合わせ先＞
〒602-8611　京都市上京区京都御苑３　宮内庁京都事務所
代表電話：075-211-1211　参観係直通電話：075-211-1215

其の二十六：令和3年3月16日
令和3年9月7日改訂